



SAKAIの最強ローラ SV900DV

テレビ「ほこ×たて」で対決！

第88号

発行所 酒井重工業株式会社
 住所 東京都港区芝大門1-4-8
 電話 03-3434-3401
 FAX 03-3434-3419
 発行人 加藤 孝

2012年1月15日（日）19:00～SAKAIの最強ローラであるSV900DV（土工用振動ローラ、20t級）が、フジテレビ系列バラエティクイズ番組の「ほこ×たて」で放映されました。



対決に際して、相手と内容は当日まで全く知らされませんでした。それとなく聞き出そうとしても、堅い口は開きません。結局、相手を知ったのは対決の直前（本当に直前）、放映の通りポストフレックス（安全ポール）がベールを脱いだ瞬間でした。写真の安全ポール上をSV900DVが振動しながら通過し、ポールが潰れたままならローラの勝ち、起き上がってきたらポールの勝ちという内容でした。直前まで対決内容を隠されたことで、対決への興奮と負けるかもしれないとの恐怖心がリアルに湧き上がる思いがしました。会社の仲間が大応援団を作ってくれたので、負ける気はしませんでした。対決結果は、「惨敗」！ただし、負けた悔しさよりも何故潰せなかったかの純粋な技術的探究心が、即座にポールの材質を確認させた本音かも知れません。

一方、裏話を紹介すると、撮影日数は全6日で、振動ローラの用途と仕組みの撮影が1日、製造工程と製品紹介が2日、機械のパフォーマンス撮影が1日、対決が1日、実際の工事現場の撮影で1日の長丁場の撮影でした。番組制作会社は、とにかく色々な素材を撮り貯めるようで、時間と天候が許す限りカメラを回し続けます。マンガ（絵コンテ）で撮影の段取りを描いたものを持ち歩き、刻一刻と変わる撮影状況に対して様々なアイデアを出しながらの撮影でした。正にセンスが問われる仕事と感じました。

撮影は川越水上公園、加藤牧場、当社技術研究所と生産センター（川越）で行いました。川越水上公園では、SV900DVが様々な製品（トランペット、単管パイプ、鉄アレイ等）を転圧し、「ぺっちゃんこ」になるのを撮影しました。また、大道芸の方のパフォーマンス（ジャグリングしながらバランスボールに乗り、振動で転倒する）も撮影していました。一見の価値ありのパフォーマンスでしたが、川越水上公園での撮影は、ほとんどオンエアされませんでした。一日中撮って、放映時間10秒ぐらい！？とても思い切りがいい感じです。



SAKAIの大応援団



撮影工程最終日の実際の工事現場での撮影では、土工用振動ローラが現場で稼働しているところをどうしても撮りたい！との切なる要望で探しに探して撮影を終えましたが、結局、こちらもオンエアされませんでした。施工業者様やローラ貸出業者様の調整、社内承認および編集期日の締切りに合わせた撮影日程調整などがあり、作業が困難を極めたので、こちらも本当に残念でした。結局、「スタジオ撮り」で芸能人の方々が盛り上がり、その映像が生きることで事前に撮影・編集した映像は、適宜カットされるようです。

機会があれば、またリベンジしたいですね。

「ぺっちゃんこ」の
トランペット

この他、最近テレビ放映された当社製品もご紹介します。対象製品は、ホイール式路面切削機 ER552F です。やはり、大型の機械はテレビ映りも良く、子供にも人気があるようです。

1) テレビ東京系列クイズ番組「和風総本家」(2011年9月29日放映)

放映をご覧になられた方は、ご存知とは思いますが、当社の ER552F は「久喜(埼玉県)の首長竜」と命名されていました。番組では、機械の機能とその仕組みが放映され、何に使われる機械であるかを問うクイズが出題されました。撮影工程は、ER552F の用途と機能について、実機を前にインタビューを実施しました。撮影日当日は、実際の工事現場にて、マンガによる大まかな構成がわかる用紙を持ち歩き、撮り残しが無いように、撮影したばかりの動画を慎重に確認しながら撮影を行っていました。仕事は真剣そのもので、ADさんの段取り不足には鉄拳制裁が行われていました。

2) NHK 教育テレビ教育番組「大!天才てれびくん」(2011年10月31日放映)

普段子供が接することのない大型機械(ER552F)に対して、子役(今回は小学5年生)が説明を聞き、体験操作をする番組でした。撮影工程は、機械の仕組みと能力について事前にヒヤリングを行い、それに基づいてプロデューサーさんが構成を決め、子役と供に撮影に挑みました。子役は小学校を休んでの撮影でした。ちゃんと補習があるようです。子供とはいえ、子役という仕事をしているという意識はしっかりしていて、アドリブを交えながらも、自分の与えられたキャラクターを演じていました。ただ、キャラ自体は素のようで、終始リラックスした、子供らしいやり取りをしていました。子供目線でのコメントもあり、とても和やかな撮影でした。

普段は目立たない道路建設機械を全国放送で周知することができて、大変貴重で有意義な経験を味わうことができました。



撮影時のホイール式路面切削機 ER552F の作業風景

新製品紹介

～NETIS 登録された SAKAI の新しい技術～

今回は、新しく登録された「端部処理プレートコンパクタ」に関する新技術案件についてご報告します。本技術は、プレートコンパクタ（当社 PC シリーズ）を用いた端部処理転圧技術で、本技術の活用によって、端部での施工性が向上し、施工品質の確保が図れるものです。また、本技術を有するプレートコンパクタは、耐久性やメンテナンス性も優れています。

NETIS 番号 : HK-110039-A

新技術名称 : 端部処理プレートコンパクタ (対象製品 : PC41//41SL/51/61/61V/61SL/70/80)



また、下表にこれまで NETIS 登録した新技術案件を示します。特に、振動タイヤローラと振動マカダムローラは、この度、施工現場での使用実績が認められ、一部の登録記号が、“-A” から“-V”に変更になりました。これからも SAKAI の NETIS 登録製品を活用頂きます様、お願い致します。

表 SAKAI の NETIS 登録技術

登録番号	技術名称	対象製品	登録概要
KT-070017-V	振動タイヤローラ 	GW750 GW750-2	可変振幅振動機構を有する振動タイヤローラで、均一で高い密度を確保できる技術
KT-080028-V	振動マカダムローラ 	MW700 MW700-1	水平・通常振動機構を有する振動マカダムローラで、ジョイント部においても均一で高い密度を確保できる技術
KT-100107-A	締固め管理システム CIS 	CIS CCV PTS-3000 (路面温度計)	施工情報をリアルタイムで計測・取得し管理することで、転圧の過不足や管理の省人化に寄与できる技術
HK-110006-A	超低騒音型締固め機械 	R2-2 TS160-2 SW・TW200-1/250-1、TW230-1 TW502-1	超低騒音認定を取得したローラで、運転者および周辺作業者の聴覚確保と騒音公害防止が可能となる技術
HK-110007-A	樹脂製タンク採用ローラ 	TZ701-1 SW・TW352-1/502-1 SW652-1/652B-1/652ND-1	ローラ貯水（散水）タンクに樹脂製品を採用することで、散水ノズルの目詰まり防止と施工品質の低下を防止する技術
HK-110015-A	高安全性土工用振動ローラ 	SV512-1 シリーズ SV900 シリーズ	土工用振動ローラに安全性を重視した設計を採用することで、施工時の事故を未然に防止する技術

※登録番号の“-A” “-V”は、情報種別記号。平成17年度以降に NETIS 登録され、技術詳細資料が提出されている技術に付与される。 A : Application V : Value の頭文字。

カザフスタンレポート！ ～極寒の中の近未来都市アスタナ～



今回のレポートは、新規代理店訪問とサービストレーニングを行ったカザフスタンを紹介します。カザフスタン共和国 (Republic of Kazakhstan) は、人口約 1,600 万人、面積は 272 万 km² で日本の約 7 倍となり旧ソ連でもロシアに次ぐ広さでした。国境はロシア連邦、中華人民共和国、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタンと接し、またカスピ海、アラル海にも面しています。1991 年のソビエト連邦崩壊に伴い国名を「カザフスタン共和国」として独立宣言し、1997 年アスタナに首都を移転しました。国民の共通言語はカザフ語で公用語はロシア語、人口の 7 割がイスラム教徒です。石油、天然ガスなどのエネルギー資源、鉱物資源に恵まれた資源大国でレアメタルを含め非鉄金属も多種豊富です (ウラン、クロムの埋蔵量は世界 2 位、亜鉛は世界 5 位)。このためカザフスタンからの輸出主要品目は合金鉄、一方日本からの輸出主要品目は自動車、鋼管、建設用・鉱山用機械等となります。



カザフスタンへは韓国、仁川空港を経由し旧首都のアルマトイで乗継いだ後、首都アスタナに夜遅くに到着しました。空港から一歩外に出た途端、氷点下 25 度の凍て付くような寒さには驚愕しました。翌朝、明るくなった街を見渡すと超近代的な建築物が多く見られ、SFの世界に突如迷い込んだかのような感覚に陥りました。実は日本が JICA による新首都アスタナの建設計画作成支援を実施し、基本設計や主要な建物を故黒川紀章氏が担当したことからこのような近未来都市ができ上がったようです。

新規代理店の本社訪問時には、事務所に入った途端、民族衣装を着た女性による伝統舞踏の歓迎を受け、我々に対する期待の大きさをヒシヒシと感じさせられました。また、季節が冬ということで工事が行えないので近郊でサービストレーニングを行ったり、建設会社の方々に集まって頂き、弊社機械のプレゼンテーションを行いました。

この後、納入実績のある客先のいるシムケントに飛行機で移動し顧客先でサービストレーニングを行いました。日本からローラメカが来るとの情報で地元のテレビ局の取材を受けました。車での移動では写真にあるようなブリザードによく遭遇しましたが、その中をスタッドレスにスパイクの付いたタイヤで時速 100 km 以上で飛ばすので、事故も結構多いらしく実際事故現場にも遭遇しました。

この地域でもシルクロード (幹線道路) 建設とリングロード (環状線) 建設計画があり今後も道路建設工事はまだまだ続くようで SAKAI のローラを使って頂けるよう、部品の供給などサービス等の充実も図っていかねければと感じました。



民族衣装を着た女性による歓迎舞踊



ブリザード風景

ある町この道 シリーズ⑭

改札を出られない終着駅



以前、とてもレトロな「国道」という名前の JR 鶴見線の駅をご紹介しましたが、今回は、鶴見線の海芝浦支線終着駅「海芝浦（うみしばうら）」駅をご紹介します。

鶴見線は貨物専用線だった路線を昭和5年（1930年）に全線電化して鶴見駅まで延長し、旅客輸送を開始しています。海芝浦駅は昭和15年（1940年）に開業し、今では関東の駅100選にも選ばれています。駅の改札が東芝の京浜事業所内にあるので、東芝関係者以外は駅の改札を出られず、そのままユーターンしなければならないという不思議な駅で、一般の人が道路から行くこともできません。

平成7年（1995年）東芝が当駅の待合客に憩いの場を提供したいとの考えから、敷地の一部を整備し「海芝公園」と名付け一般市民に開放して駅から出ずに公園で景色を楽しめるよう

になりました。

この駅のホームや公園は京浜運河に面していて、ここから東京湾が一望でき、目の前には鶴見つばさ橋という首都高速湾岸線の扇島と大黒埠頭とを結んでいる吊り橋や右手にはベイブリッジなどが眺められるとても素晴らしいスポットなので、是非一度訪れてみては如何でしょうか。



ホーム内に設置された Suica 読み取り機

What is this? ～LED 信号機あれこれ～

皆さんもお気づきだと思いますが、最近の信号機は LED が主流になってきています。LED はそれまでの電球に比べて次のようなメリットがあります。①消費電力が少ない（試算ですが日本中の信号機を全て LED にすると年間 21 万キロリットルの石油が節約できる）、②長寿命で電球だと青と赤は 1～2 年で定期的に取り換えていましたが、LED の信号機では 10 年は取り換えなくていいので、電球代や取り換え工賃が節約できる、③各色のレンズがないので日光が写り込まず、点灯と消灯の差がはっきり分かる。

但し、LED にもデメリットがあり、①設置費用が 3 割ほど高い、②発熱量が少ないので、雪国では信号機に積もった雪が解けず、見えにくくなるといったものが一般的に言われていることですが、この他にも LED は色覚異常などの症状を持っている方には判別しにくいといったことも言われるようになりました。

このような症状を持っている方には黄と赤が同じような色に見えてしまうようで、それを解決しようと港区の芝郵便局前に実験的に設置された信号機には赤の LED に×が浮き上がって見えるように部分的に LED の色を変えてあります。一般の方が見ると薄くしか見えないのですが、色覚異常などの症状を持っている方には×がはっきり見えて良く分かるそうです。コスト的にも殆ど変わらないのでこのような安全に配慮した信号機が増えるといいですね。

